

令和6年度釧路地域づくり連携会議 議事録

〔令和6年7月30日（火）10:00～12:00〕
〔釧路地方合同庁舎5階 共用会議室〕

○釧路総合振興局 土岐副局長

ただいまから、令和6年度釧路地域づくり連携会議を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます釧路総合振興局副局長の土岐と申します。本日はよろしくお願いたします。

それでは、開会に当たり、釧路総合振興局長の木村より一言御挨拶を申し上げます。

○釧路総合振興局 木村局長

釧路総合振興局長の木村でございます。皆様おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。また皆様におかれましては日頃より道政の推進、それから当振興局が進めております地域振興施策に御理解・御協力を賜り誠にありがとうございます。

この釧路地域づくり連携会議は、道と開発局がそれぞれ策定しております政策展開方針と地域づくり推進ビジョンの推進状況の報告と合わせまして、地域課題の解決に向けて様々な御意見・御提言を頂き、地域が連携して進める地域づくりの方策に反映していく目的で毎年度開催をしているものでございます。

今回はこうした報告に加えまして、北海道総合計画や第9期北海道総合開発計画に基づきまして、現在策定作業を進めております、次期「釧路根室連携地域政策展開方針」それから「地域づくり推進ビジョン」の検討状況についても御説明させていただき予定となっております。

また、本日の意見交換につきましては、「地域を支える産業の担い手対策と今後の地域づくりについて」というテーマで実施する予定となっております。依然として進行しております人口減少、それから不安定な国際情勢を背景としたエネルギー価格の高騰などの影響から、道民の暮らしや事業者の経営は依然として厳しい状況にあります中で、急速に進むデジタル化、脱炭素の流れといった視点も考慮しながら、時代の大きな流れを的確に捉えた取組が必要となっているところでございます。特に昨年度のこの会議でも御意見をいただきました地域産業の担い手不足、それから災害に強いまちづくりといった課題への対応、こういった地域課題を広く共有しまして、今後の効果的な政策展開に活かしていきたいと考えておりますので、御出席の皆様におかれましては、忌憚のない御意見・御提言を賜りますようよろしく申し上げ、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

○釧路総合振興局 土岐副局長

次に、お手元にお配りしている資料を確認させていただきます。次第の下段に配付資料の一覧がございますが、会議資料といたしまして、資料1-1、1-2、資料2-1から

2-6、資料3-1、3-2、資料4、参考資料1から3の他に、セミナーチラシ、高岡委員からの御意見となっております。不足資料がございましたら、お手数ではありますが、事務局までお知らせ願います。

それでは、次第に沿って進めてまいります。「2 議事」の(1)「釧路地域づくり連携会議及び釧路・根室地域づくり連携会議・合同会議設置規約の改正について」、釧路総合振興局から説明いたします。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

地域創生部長の村木でございます。どうぞよろしくお願いたします。資料1-1をご覧ください。今回、規約本文には変更ございませんが、資料1-1に記載のとおり、「別表2 釧路・根室地域づくり連携会議合同会議構成員名簿」について、根室地方総合開発期成会の副会長の交代に伴いまして、標津町長から羅臼町長へ構成員を変更するものでございます。

また別表3、釧路地域づくり連携会議幹事会構成員名簿について、釧路開発建設部における機構改正に伴いまして、地域振興対策室長から地域連携課長へ役職名を変更するものでございます。なお、資料1-2につきましては、改正後の規約となっておりますので、後ほど御確認をお願いいたします。議事(1)の説明は以上でございます。

○釧路総合振興局 土岐副局長

ただいま説明のありました内容につきまして、御質問や御意見などございましたら、御発言をお願いいたします。

特に御意見ないようですので、本件については資料のとおり承認とさせていただきます。よろしいでしょうか。

〈意見なし〉

ありがとうございます。次に、議事の(2)「連携地域政策展開方針の進捗状況及び次期「釧路・根室連携地域政策展開方針」振興局案等について」、釧路総合振興局から説明します。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

資料2-1をご覧ください。本資料は、令和3年度に策定しました現行の政策展開方針の地域重点政策ユニットのプロジェクトごとに昨年度の取組成果や今年度の主な取組など推進状況を整理したものです。

はじめに1ページ目、「農林水産業をはじめとした地域を支える産業の振興プロジェクト」につきまして、資料の目的の次、中段にありますこれまでの主な成果についてですが、農林水産業の生産力強化に向けた取組の推進としまして、酪農家の経営安定化に向け、乳牛による和牛生産の取組を推進するため、プロジェクトチームによる哺育技術支援の取組を進めました。右側には、担い手確保に向けた管内の事業者へのPR、そして、じもと×しご

と発見フェアの開催を記載しております。また下には、高付加価値化や販路拡大に向けた各種フェアの開催としまして、マイワシの消費拡大PR、その右側にあるように、どさんこプラザ札幌店におけるくしろフェアの開催などの取組を実施しております。

KPI の実績値については記載のとおりとなっておりまして、一番下ですが、どさんこプラザの商品定番化率が100%を超えているなどの進捗が図られております。令和6年度の主な取組につきましては、昨年度の取組と引き続き、酪農家の経営安定化に向けた畜産振興や高付加価値化、販路拡大に向けた各種フェアの開催、また、お酒と食をPRするイベントを開催してまいります。

2ページ目でございます。「地域の強みを活かした交流・関係人口の創出・拡大プロジェクト」でございます。これまでの主な取組ですが、国定公園やATなどの魅力発信として、くしろアドベンチャートラベルマップ英語版の発行や、右側でございますが、JR花咲線、釧路線におきまして、サイクルトレインモニターツアーの実施、移住定住情報の発信や受入体制の整備の取組として、YouTube等で移住情報の発信、右にいきまして、地域おこし協力隊の研修・交流会を実施しております。KPIについては記載のとおりでして、観光入込数については、コロナ以前の水準に回復しつつあるものの、8割程度の進捗となっております。令和6年度の取組につきましては、昨年度も取り組んでまいりましたサイクルツーリズム、また、AT推進の取組、各種研修会・交流会を引き続き実施してまいります。

続きまして3ページ目、「『ゼロカーボン北海道』への貢献プロジェクト」についてですが、ブルーカーボンへの理解・取組の促進としまして、全道で初めてとなる釧路管内ブルーカーボンシンポジウムの開催、右にまいりまして、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた機運の醸成、釧路の若者を対象とした情報発信の育成プログラム、専門家を派遣し学びの機会を創る出前授業の実施、さらに、右下でございますが、道産木材の需要拡大の取組としまして、木造畜舎の普及に向けた取組を実施するためプロジェクトの開催、セミナー・見学会を実施いたしました。KPIにつきましては記載のとおりとなっております。令和6年度の主な取組につきましては、ブルーカーボンの取組推進に向けたマスタープランの作成、クレジット化に関する勉強会の開催、地域の公共交通の利用促進に向けたバスの乗り方教室などの取組を進めてまいります。

最後に、安全・安心で心豊かに暮らせる地域づくりプロジェクトですが、これまでの取組成果につきましては、地域における防災教育の推進、右側にいきまして、地域防災力の充実・強化としまして、北海道地域防災マスター認定研修会や防災学ぶランド in くしろを開催するとともに、下にいきまして、少子化対策の推進として、少子化や子育て支援などの取組の必要性を周知するパネル展の開催、医療提供体制構築に向けた取組として、地域の実情に応じた体制検討のための地域医療構想調整会議を開催しまして、病床の機能転換、適正化に係る取組を進めております。KPI の実績値につきましては記載のとおりです。令和6年度の取組につきましては、引き続き地域防災マスター育成研修会、少子化対策パネル展などの取組を継続して進めてまいります。進捗状況については以上です。

続きまして、次期「連携地域別政策展開方針」の策定について御説明いたします。資料2-2となります。「1 方針の概要」について、連携地域政策展開方針は、北海道地域振興条例に基づきまして地域振興を効果的に推進するため、北海道総合計画が示す政策の基

本的な方向に沿って6つの連携地域ごとに策定する地域計画となっております。当地域におきましては、釧路根室連携地域政策展開方針を策定する形となります。

「2 策定の趣旨・考え方」になりますが、本年7月に策定された新しい北海道総合計画、また、骨子案を検討しております次期北海道創生総合戦略が示す基本的な方向に沿って、地域振興を効果的に進めるため、今年度策定するもので、令和6～10年の5か年で推進していく予定です。

「3 進め方」でございますが、次期展開方針の策定に際しては、本日行われております地域づくり連携会議などで地域の実情や課題を把握しまして、各段階において意見把握や意見照会の機会、パブリックコメントなどを通じ、市町村をはじめ関係機関の皆様からも地域の様々な意見を適切に反映していこうと考えているところです。

続きまして、現在策定中の次期方針の案について簡単に説明をさせていただきます。「資料2-3 方針の概要」をご覧ください。資料の右上に地域のめざす姿があります。こちらについては、新しい北海道総合計画からの引用となりますが、冷涼な気候と広大な大地、豊富な自然エネルギーなど多様なポテンシャルを活かした産業が展開され、幅広い世代が集い、人々が安心して暮らせる、次世代を見据えた活力ある「釧路・根室連携地域」としてしております。この地域のめざす姿に向けた「1 主な施策の展開方向」としましては、現行の方針から継続する内容もございますが、表現を変えた主なものとしまして、担い手不足やデジタル化などの様々な環境の変化に対応した地域産業の振興、釧路地域と観光や移住などの多様な形でつながる人材の創出・拡大などでありまして、5つの展開方向を掲げているところであります。これらの施策の展開方向に合わせて、「2 地域重点政策ユニット」として5つのプロジェクトを設定し、特に左から2番目の「釧路地域でつながり地域を支える人材の創出・活躍プロジェクト」は、人口減少問題や、地方創生に向けた対策のプロジェクトを位置付けております。各プロジェクトについては、例えば一番左の農林水産業のプロジェクトの中では、ICTを活用した農林水産業の生産力強化、左から2つ目ですけれども、地域の強みを活かしたATなどによる観光振興などの施策をぶら下げています。

続きまして展開方針の詳細につきましては資料2-4となります。ページ数が多い資料で恐縮ですが、本資料は振興局で案を検討する項目を中心に内容を抜粋したものでございます。1ページ目につきましては先ほどお話させていただきました地域のめざす姿からはじまりまして、2ページから4ページまでは釧路根室地域の経済・産業の動向を記載しております。5ページ目からは、これまでの取組と課題としまして、現行方針の主な施策の方向に基づき整理した取組状況や課題を記載しました。これらの課題を踏まえて12ページ、振興局の所管地域の主な課題としまして、「人口減少に対応した基幹産業の振興」や「交流・関係人口の創出拡大」、「安心・安全に暮らし続ける地域社会の形成」の3つを釧路地域の主な課題として整理しております。

これらの課題に対しまして14ページでございます。主な施策の展開方向におきまして、それぞれの展開方向に施策を紐付けし、具体的な取組を整理したものが17ページからの地域重点政策ユニットというプロジェクトとなります。

地域重点政策ユニットの取組について、主なものだけ御説明します。まず17ページです

けれども、「新技術や強みを活かした酪農・漁業など地域産業の振興プロジェクト」について、18 ページの黒四角の項目の1つ目、ICT等を活用した農林水産業の生産力強化として、引き続き自給飼料の生産拡大による草地型酪農の推進を図るとともに、スマート農林水産業や新たな養殖業の事業化に向けた技術開発などの取組を進めてまいります。加えて黒四角の2つ目、地場産品の高付加価値化や販路拡大に引き続き取り組むとともに、黒四角の3つ目にごさいます、地域産業を支える企業の振興や担い手対策の推進、労働力不足解消など様々な課題解決に向けた地域DXの推進、19 ページの一番上、農林水産業における野生鳥獣被害の軽減に向けた捕獲の担い手確保などの取組も進めていきます。

次に「釧根地域でつながり地域を支える人材の創出・活躍プロジェクト」につきましましては、21 ページから記載のとおり、黒四角の1つ目のとおり、ATなどの観光振興や、2項目目の、移住・定住関係人口の創出・拡大の取組を進めます。3つ目について、地域産業や生活を支える担い手育成と活躍の場づくりでは、他のプロジェクトからの再掲の項目もありますが、地域で働き活躍する人材の育成、横のつながりの構築、交流の場づくりなどの人材育成・担い手対策の取組、加えて22 ページの一番上にあるように、安心して子どもを育てられる環境の整備などを進めてまいります。

次に23 ページになります。「地域資源を活かした『ゼロカーボン北海道』推進プロジェクト」につきましましては、引き続き住民の皆様の理解促進や機運醸成に取り組むとともに、社会システムの脱炭素化や再生可能エネルギーの活用などを進めてまいるほか、24 ページですけれども、二酸化炭素吸収源の確保と自然保全として今年度からはじまったクリーンラーチの森の造成の取組、管内で取組が進んでいるブルーカーボンの推進などの取組を強化しながら進めてまいります。

25 ページの災害に強く安全・安心な暮らし、子育てを支えるまちづくりプロジェクトにつきましましては、引き続き、地域医療体制の構築として医療提供体制及び地域連携等の整備を進めるほか、26 ページの子育て支援及び高齢化対策や地域公共交通の確保、5Gブロードバンド環境などの生活基盤の確保、更に地域防災力の充実・強化としまして、日本海溝・千島海溝沿いで巨大地震を想定した避難施設の整備促進、市町村が行う津波避難対策、広域避難の受入市町村の確保に向けたサポートなどを進めてまいります。

最後に28 ページには北方領土のプロジェクトがありますが、これにつきましましては現行方針から継続のプロジェクトとなっておりますので、説明は省略させていただきます。

連携地域別政策展開方針の説明は以上でございます。また、資料2-5でございますが、北海道地域振興条例の点検につきましまして情報提供させていただきます。

資料の「1 条例の概要」ですが、北海道地域振興条例につきましましては、本道における地域振興の基本理念、施策推進の基本方針等を定めたもので、5年ごとに施策の状況の点検をすることとしております。

「2 点検の考え方」では、道が社会経済情勢の変化を勘案しながら、地域振興施策の実施状況等を点検し、その結果を踏まえ、必要に応じて条例の内容や地域振興施策等の見直しの検討を行うものです。

「3 進め方(1)の検討内容」としては、今後の施策展開に向けた課題や方向性、情勢変化等を踏まえた条例規定の妥当性について検討いたします。検討に当たっては(2)

のとおり、有識者による懇話会を設置しまして意見を伺うほか、市町村の皆様から書面で御意見を伺う予定でございまして、道の地域振興を進める上で忌憚のない御意見をいただけるとありがたいと考えております。

最後に今後のスケジュールですが、8月、9月に行う市町村からの意見聴取に当たっては、今後の施策展開に向けた方向性などについて照会する予定としておりまして、いただいた御意見を踏まえ、12月に点検評価報告書として取りまとめる予定です。

なお、点検結果により条例の見直しが必要と判断される場合は、年度内の改正に向けて、改めて市町村への意見照会を実施する予定でございます。その際にもよろしく願いをいたします。

資料2-6については、参考配付の資料となっておりますので、後ほど御確認をお願いいたします。

議事の(2)について、私からの説明は以上となります。

○釧路総合振興局 土岐副局長

ただいま、説明のありました内容について、御質問や御意見などがあれば、御発言をお願いします。

〈意見なし〉

それでは、次に進めさせていただきます。次に議事(3)「地域づくり推進ビジョン」のフォローアップ及び次期「地域づくり推進ビジョン」について釧路開発建設部から説明をお願いいたします。

○釧路開発建設部 井川地域連携課長

釧路開発建設部地域連携課で課長をしています井川と申します。まず資料3-1をご覧ください。地域づくり推進ビジョンのフォローアップということで、一番上の表が現行の地域づくり推進ビジョンのプロジェクトの一覧表となっております。プロジェクトの数が多いのですべての御説明は割愛させていただきますが、その一枚目の下のページにプロジェクト名として食産業高付加価値化プロジェクトとございます。

主な取り組みとしましては、効率的な食産業構造の構築、次のページに農水産物、食品の安全性向上やブランド化、さらには産業を支える物流機能の充実と、こちらの三つの柱を掲げまして一番右の欄にプロジェクト策定時に進めていく各種事業を掲載しておりました。

それぞれ事業が完了したものは完了、R6の施工中はR6施工ということで、各種国が行う事業、北海道が行う事業の進捗状況をフォローアップしているものとなります。これらについて各プロジェクトについて掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

続きまして資料3-2、「次期『地域づくり推進ビジョンについて』」御説明をさせていただきます。

釧路根室連携地域次期地域づくり推進ビジョンでございます。1ポツ目、地域づくり推進ビジョンは開発建設部と振興局が連携して作成するものとなっております。2ポツ目ですけども、釧路開発建設部、釧路総合振興局、根室振興局が連携しまして国の第9期北海道総合開発計画、北海道庁の北海道総合計画に基づく施策の展開を図るため、管内市町村などの皆様と意見交換を行い、地域づくり推進ビジョンを取りまとめることとなっております。

ビジョンはおおむね10年を期間とし、令和6年中、年内を目途に取りまとめる予定です。地域づくり推進ビジョンの構成としましては①地域の目指す姿②地域の現状・課題③地域重点プロジェクト、国プロジェクト編、振興局プロジェクト編、大きくこの3つの構成となっております。

今後のスケジュールといたしましては本日、釧路地域づくり連携会議を開催しております。明後日8月1日に根室地域づくり連携会議も開催する予定となっております。こちらでいただいた御意見等を踏まえまして、釧路開発建設部、各振興局が連携しまして、今後地域づくり推進ビジョンの案を作成してまいります。

その後、今年のおおむね秋ごろに予定をしております、第2回のそれぞれの連携会議におきまして、案について御審議いただき、その御意見を踏まえまして釧路開発建設部、各振興局が連携して地域づくり推進ビジョンを作成し、皆様の御了承を得た上でビジョンを年内に決定したいと、そのようなスケジュールを予定しております。

次の裏のページになります。地域づくり推進ビジョン策定に向けた進め方となります。1つ目としまして、釧路開発建設部におきましては、第9期計画の策定に向けまして、これまでも管内市町村長の皆様や関係機関の皆様から御意見を伺ってきております。また9期計画策定後の今年4月以降におきましても今後計画を進めるに当たりまして、様々な機会を通じまして、市町村長の皆様や関係機関の皆様から地域の実情や課題、目指すべき将来像等について御意見を伺ってきたところがございます。これまでいただいた御意見や本日の会議の御意見等を踏まえまして今後、釧路開発建設部、各振興局連携してビジョンの案を作成してまいります。

案については第2回連携会議で皆様から御意見をお伺いさせていただき決定していきたいと考えております。引き続きよろしくお願ひいたします。

次に3ページのA3の表、簡単に御説明させていただきます。こちらは今年のおおむね4月以降に市町村の方にお伺いさせていただいた際や様々な会でいただいた主な御意見、ごく一部でございますけれども抜粋して掲載しております。

上の食観光、脱炭素、人流物流、強靱な国土づくり、北方領土というのは、第9期計画の主な項目、左側は釧路開発建設部として河川、道路、港湾、漁港、農業、インフラ全般、公共交通ということでマトリックスにしてまとめさせていただいたものです。

この中でも観光の河川というカテゴリでは河川空間を整備することにより、地域住民や観光客にとって魅力的なまちづくりを進めたい。カヌーをはじめとする河川におけるアクティビティを推進するため、河川空間の基盤整備を進めてほしい。

環境・脱炭素の河川としましては自然の貯留・遊水効果を持つ釧路湿原の保全・再生を引き続き進めてほしい。

人流・物流の道路の項目としましては、高規格道路の整備により生活圏を拡大し、札幌や他地域と繋がるのが重要。また高規格道路の整備により商業施設が立地し集客にもつながっている。

人的交流の促進、観光産業・物流の活性化を地域の自立に向けた様々な整備効果をもたらすとともに、命を繋ぐ道路としての役割を果たす北海道横断自動車道根室線阿寒 IC、釧路西 IC の令和 6 年度の開通をお願いしたい。

産業、医療、観光など地域が発展するための重要なライフライン、流通ルートとして北海道横断自動車道、釧路ー根室間をはじめとするトライアングル構想の高規格道路の整備をお願いしたい。

都心部を市民生活の中心、来訪者の玄関口として皆が憩い楽しみ、訪れやすい街づくりを推進していきたい。

強靱な国土づくりにおきましては、道路の欄ですけれども防災・減災、国土強靱化からの 5 か年対策の最終年度の令和 7 年度の予算財源確保、中期計画を令和 6 年内の早期に策定していただきたい。

北海道横断自動車道の災害時の補完ルート確保などのため国道 274 号の未開通区間の早期整備をお願いしたい。

観光シーズンには利用者等の車両の避難が困難となる恐れがあるため、道の駅「厚岸グルメパーク」および隣接地の防災拠点化の支援をお願いしたい。

港湾の人流・物流ですと、釧路港が北海道の物流拠点港湾としての機能を発揮するために、西港区の外郭施設並びに水域施設の整備推進をお願いしたい。

漁港の食でいきますと「安全・安心な水産物の供給」と「つくり育てる漁業」に向けた漁港の整備促進をお願いしたい。

農業の食でいきますと次代の担い手が夢と希望を持てる「強い農業」の実現に向けた支援をお願いしたい。

人流・物流の農業で行きますと、農道について幅員が狭く機械の大型化により痛んでおり通行に支障を来している。

ごく一部ではございますけれども、このような御意見を頂いているところでございますので、今後ビジョンの案の策定に向けて参考にし反映していきたいと考えております。

なお最後、地域の現状と課題というところで、推進ビジョンの項目に地域の現状と課題でございます。

「1. 農林水産業、地域産業の振興」では、黒字のところは現在、振興局の政策展開方針案で示されている課題等になりますけれども、先ほど御紹介した皆様との御意見等を踏まえまして、赤字として追加案として豊富な地域資源を活用した農林水産業と他産業との連携による「北海道マリンビジョン」の推進や海業の振興等の地域活動に展開を推進する必要があります。

「2. 地域資源を生かした交流・関係人口の創出・拡大」におきましては、追加案としましては、人事交流の促進、観光産業等の活性化を促すため、地域間をつなげる高規格道路の整備が必要となります。

「かわたび北海道」、「シーニックバイウェイ北海道」等、多様な主体との連携による地域

資源を活用した観光地域づくりを推進していく必要があります。

「3.『ゼロカーボン北海道』と自然環境が調和する社会の構築」では、釧路湿原等の自然環境を保全するとともに、自然が有する多様な機能を利用しながら魅力ある地域づくりを進める必要があります。

「4. 産業振興や安全・安心な暮らしを支える環境整備の推進」におきましては、追加案としまして物流の「2024問題」に対して輸送時間を短縮させるための高規格道路の整備、関係主体と共同輸送や中継輸送について検討していく必要があります。国道における交通安全対策や、国道や港湾施設などインフラ施設の老朽化対策を図っていく必要があります。

最後「5. 北方領土問題の解決に向けた世論啓発・環境整備、北方領土隣接地域の振興の現状課題」につきましては、北方領土隣接地域は返還要求運動の拠点となる重要な地域でありますので、北方領土隣接地域が光り輝くよう、農林水産業等の振興、体験型・滞在型観光の促進、交通インフラ整備、防災・減災対策の充実・強化など総合的な施策の計画的推進に取り組む必要があります。

こういった形のを追加してはどうかということで、今日今回お示しさせていただきました。いずれにしても今後振興局さんの方と連携しながら現状と課題や目指すべき姿、各種プロジェクトを検討してまいりまして案を作成しました皆様にお諮りしていきたいと考えております。引き続きよろしく願いいたします。私の説明は以上となります。

○釧路総合振興局 土岐副局長

ありがとうございました。ただいま、説明のありました内容について、御質問や御意見などがあれば、御発言をお願いいたします。

〈意見なし〉

それでは、次に進みます。

続きまして、「3 意見交換」に移ります。ここからの議事進行については、釧路総合振興局長の木村により進めさせていただきます。

○釧路総合振興局 木村局長

それでは、意見交換を行います。円滑な進行に努めてまいりますので、御協力をよろしく申し上げます。

本日のテーマは、「地域を支える産業の担い手対策と今後の地域づくりについて」とし、人口減少をはじめとした地域を取り巻く環境変化と、それらに対応する施策検討のアイデアを資料4に整理しております。

先ほど御説明した新たな政策展開方針や地域づくり推進ビジョンも見据えながら、今後、当管内において、取り組むべき施策について、御意見を頂戴できればと考えています。まず始めに、資料4の説明をお願いいたします。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

資料4、A3横の資料です。当地域においても課題となっている人口減少に関しては、これまで当会議でも皆様から御意見を賜っているところですが、人口減少が進行する中で次世代を見据え地域産業の担い手対策や今後の地域づくりをどのように進めていくべきか議論の参考となるよう資料をまとめたものです。

まず資料の左側、「地域を取り巻く環境の変化」としまして、人口減少関連の項目を主なものとして整理しています。

1つ目は「止まらない人口減少、戻らない観光客」について、グラフに記載のとおり、管内人口の減少に伴いまして、建設業をはじめとした地域産業の担い手不足が深刻化しているほか、コロナウイルスの影響により減少した観光客数は、コロナ禍前の水準までは回復していない状況です。

2つ目は「長期化する不安定な国際情勢」としまして、依然としてエネルギー価格の高騰等が続いており、道民の皆様の暮らしや管内の基幹産業である酪農など一次産業をはじめとした事業者の経営環境は一層厳しい状況です。

3つ目の「激甚化・頻発化する自然災害等の影響」について、記録的な豪雨など自然災害への対応が求められていることに加えまして、切迫していると言われる日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震、津波への備えも引き続き必要な状況です。

一番下に管内の一次産業の状況を整理しましたので、こちらも参考にいただければと思います。

このエリアの地域をとりまく環境が変化する中、釧路地域の活性化に繋がる課題に対処していくためには、資料の中央の上部に考慮すべき視点として記載した、ゼロカーボンやDXなどのトレンドを踏まえた、時代の大きな流れに対応した取り組みが必要と考えております。

また資料の右の上の方に地域の明るい話題を記載いたしました。今年度、道東道の阿寒―釧路西ICの開通が予定されているほか、本年秋頃には釧路湿原、阿寒摩周、知床の3つの国立公園を繋ぐロングトレイル開通の予定もあり、これらの効果を交流人口の拡大また物流機能の向上につなげていくことが重要です。

これらの視点を踏まえまして、資料の右下に本日の議論の参考となるよう、今後の取り組みとして考えられるアイデアを整理しました。記載内容については先ほど御説明させていただきました、次期政策展開方針に記載している主な施策の展開方向などと共通するものとなっております。

1つ目の「担い手不足やデジタル化などの様々な環境変化に対応した地域産業の振興」として、ロボットやドローン技術の導入など、ICTを活用した農林水産業の強化、地場産品の高付加価値化、販路拡大、地域の産業を支える中小企業の振興、担い手不足対策の推進などの取り組みがございます。

2つ目「釧路地域と観光や移住などの多様な形でつながる人材の創出・拡大」としまして、ATなどによる観光振興、長期滞在を通じた移住、定住また関係人口の創出・拡大、地域産業や生活を支える担い手の育成と活躍の場づくり、子育ての環境整備という取組をパッケージにしております。

3つ目の「地域の強みを活かしたゼロカーボンの実現」では、ゼロカーボン北海道の実現に向けましては利用促進、機運醸成、社会システムの脱炭素化と再生可能エネルギーの活用、二酸化炭素吸収源の確保と自然環境の保全などの取り組みを並べております。

最後に4つ目の、「災害に強く誰もが可能性を発揮できる地域づくり」としまして地域医療体制の構築、子育て支援、高齢化対策と生活基盤の確保、地域防災力の充実、強化という取り組みを進める必要があると考えております。

資料の説明は以上となります。今後の地域づくりに向けて忌憚のない意見を賜りたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○釧路総合振興局 木村局長

ありがとうございました。それでは、まずは皆様から一言ずつ御発言をいただきたいと思っております。お時間の都合もございますのでお一人5分程度で御発言をいただければと存じます。なお、本日欠席の浜中町農業協同組合高岡委員からは、事前に御意見をいただいております。別紙で机上配付しておりますので御確認をお願いいたします。また本日は急遽、宮田委員も欠席となってしまう御意見間に合わなかったということで後日お配りさせていただきたいと思っております。

○釧路市 秋里副市長

蝦名市長、病气療養中ですので代わって発言させていただきます。本年度、いよいよ道東道が釧路まで来ます。釧路開発建設部、釧路総合振興局にはお世話になっており、この場を借りてお礼を申し上げます。

私からは今日のテーマでございます、地域を支える産業の担い手対策と今後の地域づくりとしては、人不足の問題それと産業づくりということだと思っております。

様々な会合に参加する中で、人が集まらない、募集しても来ない、問い合わせすらないということ、本当に切実な声を事業者さんからお聞きしています。

人口が減少してきておりまして、特に若年層が進学や就職で若いときに出て、中々戻ってこないことが原因だろうと思っております。

そんな中で、釧路市はビジネスサポートセンター k-Biz というものがありまして、ここで新たな取組として k-Hack という取組をしており、IT 産業人材の働く場づくりですが、ここに対する反応は結構あります。

そういった意味では、若い人たちにアピール出来るような場づくり、仕事づくり、いろんな既存の産業でもこれまでの働き方ではない、新たな若い人が活躍しやすいような部署や仕事もあるということ、しっかり届けていけないと感じているところです。

釧路市で今年、額は大きくないですが人材確保支援事業を単独で約 1,500 万円用意したところ、あっという間に無くなってしまい 1,500 万円追加して、計 3,000 万円としたところです。

1 事業者 50 万円の補助ですが、人材確保に向けた取組に使って良いということで、これについてはかなり多くの問い合わせがありました。やはり今の若い人たちは情報をどこで取るかという HP、SNS です。企業が人材を募集していると、どんな仕事で、どんな働き

方をしているかをネットで見に行きます。ただ、その会社の HP に人材リクルーティングのページがない、どんな働き方をしているかという動画もない、それだけで選択肢から外れてしまうそうです。そういった意味では、HP のリクルートに関する再整備をしたいという企業さんが本当に多くて、50 万円ではありますが、HP の整備をするために補助金を使ったという方がかなり多かったです。

そういった取組をして、若者にもアピールして、これだけで解決できるものではありませんが、事業者さんの声を取り入れた取組を行政もやっていかなければならないと感じています。

一方で、人材を確保し続けるためには、産業、働く場所づくりだと思います。働く場所を確保するためには、何と云っても事業者さんのサポートもありますが、様々な分野での生産基盤の整備、また交通体系基盤の整備、そういった事が非常に大事になってきているかなと思います。

先程の資料 4 にも、人口が減っている、左下に一次産業の生産状況もありますが、かなりこの地域は一次産業のウェートが高い。この部分はしっかりと今も堅持され続けている。

同じインフラ、道路、港湾、鉄道を整備するに当たっても、この効果、大きさというのを一緒になって訴えていく必要があるのかなと思います。

広いところに人が少ないから道路が必要、安全のためにも必要という言い方もありますが、この釧路・根室エリアは日本の食を守っている、支えている。

釧路だけで農業産出額、漁業生産額、それぞれ 6、7%ありますが、根室を入れると 10%、15%あるわけです。ここが機能しなければ、日本全体の食を支えられないという、具体的な経済効果のボリューム感、必要性を訴え合わせた中でのインフラ整備ということが必要かと考えているところです。

若者へのアピールと、インフラ基盤を整備して産業を整えること、これにしっかり取り組んでいくことが必要かなということ、発言させていただきました。

○釧路町 小松町長

日頃から大変お世話になっております。私からは 2 点ほど発言をさせていただきたいと思います。

資料に 1 次産業の生産状況がありましたが、当町もかなり深刻な 1 次産業の衰退、担い手も含めて非常に厳しい状況にあります。

30 年前と比較しますと、農業従事者は 85%減、漁業従事者は 52%減ということでありまして、特に農業が壊滅的な状況に近いというくらい、進んでいるところであります。

こういった状況の中で、民間企業が食肉加工処理の候補地を探しているという情報を得まして、当町の情報を提供しながら民間企業との話し合いの結果、当町を最有力候補地として選定いただき、現在、建設地も決まりまして、食肉加工センターの建設に向けて進んでいるところです。

これまで農林水産省の補助金を決定いただいたり、北海道の様々な手続きを含めて、大変御理解と御協力をいただいていることを本当に感謝に堪えないところであります。

建設される食肉加工センターは、釧路地域で牛の繁殖、育成、肥育業まで一手に手がけ

るということとして、新たな産業の創出と地域の生産、肥育農家との共栄関係を図る、それから釧根地域における酪農、畜産業の発展を目指すということで、大変、この企業の進出は大きな効果を見込めるものであると思っております。

また釧根地域の長い間の課題でありました、牛のと畜機能も有しておりますので、地域における牛の輸送負担を大幅に減らすことができるとともに、乳牛、肉用牛の生産から加工まで地域で一貫して行うことができます。

更に、この企業は輸出を前提としておりますので、最終加工までセンター内で完結する形となり、地域資源を活用した新たな付加価値が創出出来るということになります。

関連会社である兵庫県の肉牛の優秀な受精卵を、既にホルスタインにつけているということで、これらの技術移転も行われており、今後ますます良質な肉牛がここから生産されていくこととなります。

こういったことが実現されていけば、牛の繁殖、育成、肥育とかなりの担い手が確保できるのではないかと、我々も今回の事業に大変期待しているところです。

道内、国内向けの系統出荷と競合しないということ、輸出を主軸とした生産体制であることから、国内需要が落ち込んだ際にも肉牛の需給バランスを取ることに大変寄与出来ると言われております。

それから、北海道全体の輸出拡大戦略にも適うものでありますので、釧根地域における地域づくりに重要な拠点になると思えます。

ただ現在、資材高騰などもあり、工事計画が少し遅れている状況にあります。これからも様々な手続きがありますが、北海道、国にも色々と御協力を求めていかなければならないということでもあります。

こういう状況ではありますが、事業者側は計画をしっかりと推進していきたいと強い意思表示をされておりますので、関係する釧根の関係する自治体、団体を含めて、御理解と御協力をお願いを私からも改めてさせていただいて、しっかり進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

2点目は、大変問題となっておりますコンブの資源減少です。コンブを維持することで、二酸化炭素の吸収源の確保ができるということでもあります。

これらの計画の中で、ブルーカーボンという言葉をつけていただいて、先行的に進めていただいていることに、非常に感謝しているところであります。

現在、昨年海水温の上昇によって、海の環境変化はかなり変わってきております。道東沿岸のコンブの全体数量、根室、襟裳もそうですが、かなり減産傾向にあるであろうと思えます。

気温上昇は他の魚介類にも深刻な影響を与えと言われており、非常に懸念する案件であります。

我々はコンブを守る取組、資源維持をするためには、長年に渡って国、北海道の事業などの支援をいただいて、受益者負担もしながら、コンブの胞子の着床がスムーズに進むように、環境を整えてきたところでして、長く生産地である釧根地域が更に連携して進めていく必要があるのではないかと、この場で訴えさせていただきたいと思えます。

それから、これをやることによって、ブルーカーボン、振興局によって協議会が出来て

いますが、二酸化炭素の吸収源に大きく寄与できることを、生産者もしっかり認識しながら資源増大対策をやっていく、具体的にしっかり進めていかなければ、完全に大変な状況になるということです。コンブの資源増大と脱炭素をしっかり組み合わせながら、これから取り組んでいく必要があるということでもありますので、このことを私の発言とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○厚岸町 石塚副町長

厚岸町では現在様々な分野で人手不足、担い手不足が深刻な状況になっております。基幹産業であります漁業と酪農におきましては、不漁や資材高騰等による影響がございますが、多くは少子高齢化や若年層の都市部への流出など、生産年齢人口の減少から後継者不足によりそれぞれの組合員数が減少している状況にあります。

さらにはこれを支えている漁協、農協においても同様の理由で職員の人材確保が非常に厳しい状況になっておりまして、実際に急激に減少している状況であります。商工業においては新規の加入者が毎年数件ありますが、それ以上に高齢化や後継者不足から退会者が加入者の数以上に相当数上回っており、医療・介護の従事者、観光業、行政など様々な分野においても町内の担い手、人材確保、特に有資格者の確保が非常に厳しい状況になっております。昨年12月の人口問題研究所から示された将来人口推計では、2050年の当町の人口は4,343人まで減少する見込みになっておりまして、町民の生活基盤の確保、今後のまちづくりについて、行政として大きな危機感を持っております。当町ではこれまで行ってきております若者や新たな人材を呼び込むための移住、定住施策や技術、知識習得による産業の担い手の確保対策の継続をしていかなければならないと考えておりますが、一方で全国の人口減少に歯止めがかからない状態である以上、その効果だけに大きな期待をしているだけではますます厳しさを増すのではないかと考えております。

現在産業分野での担い手確保と生産性向上のためにスマート水産業やスマート農業、スマート林業が全国的にも注目されており、その取組が進められておりますが、今後様々な分野においてデジタル技術を活用した業務プロセス、仕事のやり方の変革が必要になるものと考えております。また行政においてももちろん必要なことであると考えております。当町では他の自治体に比べて少し遅れをとっていると感じるところではありますが、今年度において、先月に「厚岸町DX推進会議」をたちあげて、現在は各分野における業務量調査や改善、変革の方法についてワーキンググループを作って検討を始めたところであります。今後釧路地域において、釧路開発建設部や釧路総合振興局の皆様と情報共有をさせていただきながら、人口減少を前提としたまちづくり、行政運営の変革につなげていくことや、関係人口の増加を図るための高規格道路ももちろんですが、このような取組も進めていくことが重要と考えておりますし、釧路地域共通の課題として広域的な取組が必要ではないかと思っているところであります。

○浜中町 齊藤町長

浜中町は基幹産業であります漁業、酪農業をはじめ、林業も含めた1次産業の就業人口が北海道で唯一5割に達している町であります。漁業におきましては、国の地理的表示保

護制度「GI 登録」の認定を昨年7月に受けた浜中養殖ウニ、そして酪農業におきましては、ハーゲンダッツアイスクリームの原料乳として、本当にクオリティの高い様々な農水産物が多く生産されております。このことについては生産者そして販売などを担う商工業者が本町の産業を支えているわけでありまして、木村釧路総合振興局長の御挨拶でもありましたとおり、不安定な国際情勢を背景に物価高騰が続く中で特に漁業者、そして酪農業者におきましては本当に厳しい経営状況が続いております。少子高齢化などをはじめとして人口構造の変化によって町を支える産業の担い手不足は本当に深刻な問題であります。

本町では産業を支える担い手対策として平成29年の4月から漁業、酪農業、商工業の3分野における後継者対策の1つとして後継者就業交付金事業を始めております。この事業におきましては、新たに学校を卒業して就業した場合、そして町外からUターンなどによって後継者として就業した場合に月額5万円を3年間、合計で180万円を交付するものであります。希望者の申込が多くこれまで若い世代を中心に家業を継承していただいております。ちなみに平成29年度から昨年度までのそれぞれの実績を申し上げますと、漁業後継者で36人、酪農後継者で18人、商工業の後継者で4人となっております。また移住施策とも関係しますが、酪農業に関しましては浜中町農協との協力のもと、毎年東京や大阪で開催されている新農業人フェアに町としても参加しており、町外から酪農に興味のある方など、就農希望者を呼び込む取組をしているところであります。

今年に入りまして酪農ヘルパー人材として外国人を採用する際に地域おこし協力隊の制度を活用できることが総務省より示され、人手不足が深刻化しているヘルパー組合を人材確保の手段として、本制度を上手く活用できるかどうかの検討を進めていく考えであります。続いて釧路地域につきましては、本町のように特に1次産業が基幹産業である町の場合、産業を守っていくことが、まちづくりの全ての基本であります。

特に重要なことは今町内で漁業や酪農業といった産業に携わる人たちがこれから先もこの地域に住み続けたいと思っていただき、産業をいつまでも支え続けていただけることが大切と考えております。そのためには先ほど申し上げております後継者就業交付金制度のほか、産業を支えるための各種支援に引き続き取り組んでまいりますが、釧路地域における産業の担い手対策として、例えば各種フェアに単なる1自治体として参加するのではなく、釧路地域として出展してみるなど釧路管内全体で連携を図りながら考えていく必要があるのではないかと考えているところであります。

防災に関する事業につきましては、これまでも国や北海道による力強い御支援のもと、地震、津波対策として防潮堤の整備や避難道路の改修を進めていくことができました。御支援をいただいたことに大変感謝申し上げます。今後はさらに災害対策を強化するために、津波避難タワーなどの避難施設の整備といった大型事業を控えていますので、引き続き国や北海道からの御支援をいただきながら事業がスムーズに進み、安全安心な地域づくりにつながればと考えているところであります。

今年度開通予定であります道東自動車道の阿寒 IC から釧路西 IC までですが、釧路一札幌間がこれまで以上にアクセスしやすくなるということで釧路地域におきましては大変大きなメリットがあるものと考えております。北海道横断自動車道を含めた道路整備につきましては、特に本町のように都市部から離れた地域におきましては、防災はもとより、地

域の産品を輸送する物流の観点、さらには関係人口拡大に必要な人の移動機会を増加させるために大変重要と考えております。今年度は道路期成会要望をはじめ、各種道路関係の総会や会議に参加させていただいているところではありますが、地域における道路の必要性を改めて認識をしているところでもあります。今後も釧路地域が関係する路線の早期整備が実現できるように互いに協力しながら一丸となって要望活動をはじめとする様々な取組を進めてまいりたいと考えているところでもあります。

人口減少が加速する中、様々な課題に適応しながら地域経済を維持発展するためにも産業の担い手対策そして防災をはじめとする様々な取組について釧路地域がより一層一体となって連携することが重要であると考えておりますので、今後とも皆様と一緒に力を合わせて頑張っていきたいと考えております。

○標茶町 佐藤町長

日頃から皆さんには大変お世話になっております。人口減少の問題はどこの町でも同じように進んでいると思いますが、その中でも標茶町は酪農を基幹産業とする町でして、先程の資料に1次産業の生産状況がありましたが、農業産出額が釧路管内で869億円、実は標茶町だけで293億円あり、約3分の1を占めており、この基幹産業が安定していることによって、町が一定程度の人口を維持していくということで取り組んでいる。

特に、新規就農に向けた体験牧場を平成27年から学校を作っています。農協、雪印種苗(株)、標茶町が融資して「TACSしべちゃ」という実験牧場を作って、そこで研修を受けるという形で、昨年は新規就農2組、今年も1組入っており、短期の実習生もコロナ禍でも年間50組くらいを受け入れている。

そういう環境をつくることで、先を見据えながら人材を確保していくことが大事だと思います、そこに力を入れていきたいと思っておりますし、合わせて、折角良い牛乳を搾っても、うちの町にミルクプラントがなくて、標茶の牛乳を中標津に持って行って加工してもらい、それを学校給食に提供して標茶牛乳として販売をしています。札幌のどさんこプラザにも置いていただき、売れないと置けなくなるようですが、頑張っておき続けており、質が認められてきているかと思っておりますので、そういった部分に更に力を入れていくことが、これから特に大事かと思っております。

いろいろな方から食料基地としての釧路、根室地域のポテンシャルをもっともっと外に対してアピールしていくことが、この地域の今後の方向性かと思っております。

それと合わせて、大自然を生かしたアウトドアブームも、これから釧路地方の切り口になると思っております。3年くらい前から、開発建設部の河川事務所、それから環境省と一緒に、河、沼、鉄道も上手く利用する形で、「かわたびプロジェクト」として、今まで利用されていないところも利用しながら釧路川の河川敷、もちろん国立公園の中ですから環境省さんの了解を得ながら、今まで使っていないところを活用しながら提供していく、新たな事業を作っています、そのツアーを、新聞に出ましたが釧路湿原唯一の宿泊施設でありました、かや沼が5年半ぶりに9月30日にグランドオープンすることになりましたので、そういったアクティビティを、他では体験できないものを提供していきたいと考えておりますので、機会がありましたら皆さんに御利用いただければと思っております。

せっかく大自然がありながら、今いろいろなところで問題になっているのが、実はゼロカーボンとかそういった中で再生エネルギーを有効に活用していこうという趣旨は十分理解するのですが、やはり異常な、本当はここにはない方がよいなというようなところに、実は太陽光（パネル）が、釧路湿原周辺に乱立しているのかなというのが、実は気になっているというような状況でありまして、そこをやはり広域的な視点で縛りをかけていく、ゾーニングをしっかりとしていくということをしていかないと、営業ベースでどんどんやっつてしまえば、非常にこの地域の価値が駄目になるのかなと。あるいは国道の両側は極力遠慮して貰うとか、そういった事がしっかりとあってもいいのかなというふうに思いまして、今日来る時も国道 391 沿いで太陽光の工事をやっているところがありました。ああいうのを見ると景観としてどうなのかなと。シーニックバイウェイなどいろんなことをやっているこの地域ですので、しっかりそういう事も考えていただければいいのかなと思っています。

最後に、今回期成会の要請活動の中で、私の個人的テーマとしてはくしろ湿原ノロッコ号を何とか存続、継続して運行していただくということと、それと合わせて、鉄道の事をもっと、資料も色々見させていただきましたが、鉄道に触れているところがあまりないのかなと。公共インフラとして、道路、空港、河川といろいろありますが、鉄道もやはり国策として維持をしながら、インフラとして維持するというのが大前提かと思いますが、日本は残念ながら民営化以降、そこにお任せのような状況で、ご存じのようにこの地区の釧網線、花咲線が赤字路線として単独では維持できない路線になってしまっているという中で、しっかりこの地域の声として、鉄道がこれから食料基地としての重要なインフラになる、観光のインフラにもなるということを、しっかり、もっと強力にアピールしていかなければ駄目なのではないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○弟子屈町 徳永町長

平成 28 年に台風 3 本が、九州、四国、中国、関西に入らず、日高山脈より東側に来ました。そのうち 2 本が釧路管内、弟子屈町の阿寒の山脈に来ました。

その時に、屈斜路湖が 1.5m 水嵩が上がり、摩周湖は 2 m、釧路湿原は 1 ヶ月間鉄道が停止しました。それが何かというと、それ以来、温暖化の影響がずっと続いています。

釧路管内の酪農ビジョンでは草地更新率を 4% から 7%、10% にしようと取り組んできました。それもありますが、デントコーンの作付けが内陸の鶴居村、標茶町、弟子屈町よりも、浜側の釧路町、厚岸町、浜中町、別海町、標津町まで、海岸でもしっかりと実が入るようになりました。

その影響は、いろんな場面で草地更新率を高める結果、1 番草、2 番草とデントコーンサイレージの組み合わせで良質な牛乳の生産が出来るようになる、そういう事も一つあったのではないかと思います。今もそれが続いており、当地でも大豆の生産がここ 3、4 年見ていると毎年、反当たり 5 俵以上が収穫できるようになっています。北海道全体でも落花生、さつまいもも作るような場面が来ています。

我が町でも、ぶどうを 10 年前に池田町の町長にお願いして、清見、清舞、山幸の 3 品種をいただいて、それを当町で栽培することによって、清見、清舞は駄目でしたが、根釧地

域でもしっかりと山幸であればワイン用ブドウが取れることが如実になって、ワイナリーが落成し8月から新たに始まります。

和牛の生産が、初めて根釧の酪農地帯で令和元年に北海道和牛共進会でグランドチャンピオンになったのが、弟子屈町の和牛の肥育農家でした。根釧で初めてであり、令和4年も1位になっています。

先程、小松町長からもありましたが、和牛の生産、肉牛の生産というのは、根釧の酪農地帯で力が無かったので肥育まで出来ていませんでした。ほとんどが十勝です。ですから、根釧の農業生産が2,000億円、十勝の4,000億円近い中に畜産、酪農生産がすごい占めています。

そのことを、今改めて根釧でも肥育農家の育成を管内全域でやっていかなければ、いくらと場を作っても絵に描いた餅になってしまいますので、このことを提案したいと思います。

先程、天候の事をいいましたが、農業でも新たな作物、温暖化対策の生産を目指すべきであるし、養殖一つ取りましても内陸養殖も考えていかなければ、農家も漁家も減ってくるし、そういう事が現実の世界ですごいスピードで起きています。

一回辞めたものは中々戻ってきません。私も酪農家ですので分かりますが、臭い、汚い、きつい中で、酪農生産がやっと良くなってきた時期に、こういう状態が続いています。漁家もそうでした、やっと自分達で食べられるようになって、こういう状態が続くと、中々、子ども達は帰ってきませんので、そういうこともわきまえながら、行政として運営していかなければならないと思います。

我が町では、子ども達を町民みんなで育てよう、釧路管内の子ども達をみんなですごい気持ちで育てる、更には高齢者が安心してこの地域で暮らせることをやっていこうということを、全地域で目指した方が良いのではないかと思います。

特にうちのような小さい町でも、お医者さんが10人いますから、6,600人に対して、本当にありがたいことが起きています。これは何かというと、そういう事が大事なのではないかと思います。介護の関係でも高齢者2人に1台のベッドがあります。これも全道でも高い方です。こういう事もしっかりと守りながら、地域を守っていく、そして私が大事だと思うのは、1次産業で生産したものを、この管内全体で2次加工して製品として他地域に持って行くことを、みんなで考えていかなければ、いつまで経っても原料を作ってそれを売っているだけではうだつが上がらないと思いますので、是非そういう事をみんなで考えていけたらと思います。

観光の面では、今年ロングトレイルが、釧路湿原から阿寒・摩周国立公園、更には厚岸霧多布昆布森国定公園と知床国立公園までの超ロングトレイルができますから、これらを区間、区間で区切って小さいルートも作っていくのも一つの手ではないかと思います。

最後になりますが、最近特に思うのが紅鮭が屈斜路湖に上ってくるようになってきています。9～10月頃に大量に屈斜路湖でも産卵しますが、その上の方でも産卵するような事態になっています。これは、海の魚をしっかりと丘でも育てていくことも考える必要があるのではないかと、このことを提案したいと思います。以上です。

○鶴居村 大石村長

日頃、大変お世話になっております。今日お話を聞かせていただいて、これから進めようとする内容につきましては、十分理解をすることでございます。

これまで各首長の方々がお話されてきたことと、そんなに変わりはありませんが、この地域の振興が非常に重要だと思っております。酪農を取り巻く情勢も非常に厳しさはありますが、生産額を更に伸ばすとすれば、酪農プラス畜産などの取組をこの地域でもしっかり取り組んでいくことが必要だろうと思っております。

また、気候変動などで今までは作れなかった農産物が作れるようになっている部分もありますので、長い年月をかけながら取り組んでいくことが、これからこの地域の存在価値を高めていくことに繋がっていくと思っております。

畜産の関係ですと、わが地域でもここ数年で酪農の離農が5件程度、発生しております。大変残念な状況にあります。一方で和牛などの取組をする農家が、もちろん酪農との兼業ではありますが、増えてきている状況です。

徳永町長もお話されていましたが、産んですぐ出すのではなくて、少しずつこの地域で手をかけながら取り組んでいくことが必要だと思っておりますし、地元の各農家の皆さん方も、できればそういう環境があることにこしたことはないという意見もたくさん出ておまして、こういった事がこれからの畜産の課題なのかなと思っております。

それと、秋里副市長もお話されましたが、高速道路がいよいよ今年度中に釧路西 ICまで繋がるということで、白糠、阿寒と延伸してきた中で、大きな効果をもたらしているところでありますので、釧路市中心部に繋がり、外環状に繋がるという事は、非常に大きな効果であると思っております。

我々も隣接する地域として、この高速道路の効果というものをしっかりと感じていきたいと思っておりますし、人の往来、物流など産業振興、観光振興にとりましても、非常に大きなものがあると思っております。これから釧路地域として、この効果を連携して高めていくことが必要であろうと思っております。

そんな観点から、釧路湿原国立公園は高速道路からも非常に近いところにあるということで、釧路湿原はこれまでも国立公園としての役割を果たしてきているところですが、保護、保全、そしてこれから有効活用していかねばならないということで、標茶町長もお話されていましたが、釧路湿原国立公園は広域的な要素も持っている公園ですので、これをしっかり進めていくことが必要だと思っております。

湿原のエリアで申しますと、国立公園の最深部のところは我々の地域にあるのですが、中々有効活用できていないというのが実態であります。その意味で今年、環境省、国の支援もいただきながら、釧路湿原国立公園のアドベンチャートラベルということで実証実験を今年一年かけながら進めることとしております。

その中では国立公園内の木が繁茂して、なかなか全体を見渡せないという状況もあります。樹木の伐採、冬期間も利用できるようなアクセス道路の確保、AT体験の取組に繋がるような実証実験をしていきたいと思っております。海外からのインバウンドなども多くなってきているところですが、聞くところによるとインバウンドの方々も、自然体験であったりバードウォッチング、こういったところに主眼、目的を持って来られると聞

いておりますので、まさに釧路湿原を始めとするこの地域全体の価値は非常に高いものがあると思っておりますので、こういったところに少しずつでも取組を進めていきたいと思っています。

釧路湿原国立公園は、開発建設部の皆様も非常に深い御理解をいただいて、検討されているところですが、標茶町長も言われたとおり、我々とすれば釧路から鶴居村に繋がる右岸堤防、これをやはりこれから有効活用していただくことが必要なのかなと思っておりますので、歩いたり、サイクリング、馬もそうですが、そういった取組にも繋げて、これを生かせば温根内のビジターセンターにも繋がる、釧路市とも繋がるということで、バックには阿寒連峰があり、非常に大きな役割を果たしていくのではないかなと思っております。

いろいろと頭に描くことはたくさんあるのですが、如何せん人手不足というのは、やはり難しい側面があるかと思っております。医療の関係なども今年うちの村内で精神科医療の病院が休院となってしまって、非常に地域医療の衰退というのが心配するところです。

また、小児科などいろいろあるかと思いますが、安心して暮らしていく上で医療の果たす役割は非常に大きいと思っております。いろいろと課題はありますが、我々の地域の開発建設部、振興局と十分連携を図りながら、広域的な視点に立って、いろいろなことに当たっていききたいと考えております。以上です。

○白糠町 棚野町長

私、今日、連携会議としてお願いしたいことがありました。情報交換、そういう場をつくっていただいて、色んな意見交換をしながらというのは十分分かっているんですが、ややもすると目的と手段が違って、手段ばかり議論されているような感じがいたします。

各々の市町村はしっかりと、日頃から真剣になってまちづくりをやっておりますので、これは理解していただいていると思っておりますが、その上で、例えば、人口減少と人手不足、私は別問題だと思っている。ややもすると一緒くたになっています。人が減っているのだから働き手がない。じゃあ高齢の方が居ればいいのかという話ではない。例えば、このこと一つとっても釧路管内にとって人口減少と人手不足はどういう違いがあるのかということ、しっかり分析しなければ、これはズルズルいってしまおうと大変なことになるのではないかという実は危機感を持っています。

そのために、一つだけですが、ちょっと連携会議でお願いしたいことがあります。釧路管内の1市7町村、人口が一番多かった時期がいつか。恐らく昭和30年代です。うちも2万3千人いました。このときの、振興局と開発さん挙げて分析して欲しい。

例えば、白糠で2万3千人いた。この時の、いわゆる、やはり今大事なことは気候風土と資源を生かさなければ、身の丈に合ったまちづくりはできない。以前我々も企業誘致と言って団地をつくれればくるというのは甘い話であった。今はそういう時代ではないです。

いずれにしても大事なものは、その町、地域の気候風土と資源を活かして、その経済活動なくして町はない。これはみんな知っていることです。その経済活動をどうしっかり発展させるかということになると、もちろん今の時代背景など色々ありますが、その上で、原

点がうちの町に2万3千人いたときに、あの当時、うちの町は770㎏ありますから、山が8割を超えていて、国有林も含めて林産業が一番華やかな時期でした。

もう一つは石炭です。釧路炭田は浦幌から音別、白糠、阿寒、釧路市、釧路町、厚岸、これを称して釧路炭田です。今は釧路市、太平洋だけが釧路炭田だったと思う人が圧倒的にいる。

このことも実は、歴史を学ばなければいけないのですが、いずれにしても石炭と林産業が一番華やかな時代で、もちろんちょうど戦後ですから馬から酪農に変わったんです。酪農ですから、草刈りをするのに一軒の農家が人を頼んで半月以上やっていました。そういう時代です。漁業も皆さん馬を飼っていた。その時から動力源が出てきて転換期でもありました。

この時に、概算ですが2万3千人いて、当時は高齢化ではないので、働いていた人はどれくらいだろうと、1万5、6千人は働いていた。そうしますと、うちの町は石炭という地下資源もですから120%の大地を利活用して、2万3千人いて、例えば1万5、6千人が働いていた。

そうすると今、時代は変わりましたが、その時代に今の最新鋭の装備を持って、タイムスリップしたら、果たして働く人は何人で良いのだろうと。ちょっと分析して欲しい。私は5、6千人いたら十分だと思っています。

草刈りは半月かかっていたのが、トラクター1台あれば2日で終わる。そうすると、あの最盛期の白糠、いわゆる活盛期に、今の装備を持って行ったら、どれだけの人口であれば良いのだろう、幸せなんだろうと。恐らく、うちの町、1万人いたら最高に幸せですよ。

でも、今は石炭がない。山は切りすぎてしまい、ようやく復活の時代です。そうすると、私は少なくとも町長になった時に、120%の大地を利活用していたのが4割に減ったと思っていました。町民の皆さん諦めムードでした。高速道路が出来て変わりましたが。

そういう意味では私は活性化して4割を2割くらい増やしたいと思っています。100%とは思っていません。そういたしますと、今は石炭もなければ山も変わった。今の気候風土と世の中の情勢を見て、白糠の基幹産業である農業、漁業、林産業、これがどうあるべきなのかということを考えるために、昭和30年代、それから出来れば10年ごとに、町々の人口動態のデータを出していただきたい。

それは何故かという、先程、秋里副市長の話聞いてなるほどと思いました。当時は、釧路市は管内の経済活動の中核都市として頑張ってもらっていた。支店など物流も含めて、トラックから何から全部揃っていた。

我々は昔の流れの中で、管内で釧路市が頑張っていたという思いで、今、釧路市がどんどん人口が減っていくと我々も困るから、みんなで頑張ろうと思っていますが、違うのではないかと。

我々も今、一次産業頑張らないといけないが、釧路市は効率化を求めてきたが故に、その経済活動とどう結びついているのかということも変わっている。釧路市は釧路市として、三次産業の町としてどう生きるかを考えているのだと思います。

そのことをわきまえた上で、我々が釧路というものを活性化していかなければ、ケンカするというのではなく、そのことを割り切ってお互いがどうあるべきかということ考

えていかなければ、人口減少と人手不足は全く違うということを理解出来ていけない。

簡単です。人がどこも減っているのだから、(人手不足が) 当たり前だ、ではないです。人手不足は別問題で、金がどこにあるかということ。うちの町を振り返ると、所得がないからです。昔から生産者の所得が上がらないです。これを上げるにはどうしたら良いか。所得が上がらないから跡継ぎがないのです。

いくら中央で給料上げろといっても地方は上がりません。生産者がいなくなれば、二次も三次もなくなってしまいます。食料自給率にも影響していく。

一つの課題として、給料を上げる、報酬を上げるとするとどうするか。今までのように、つくづく思います。北海道の主産業は全て公共事業でした。道路や橋は手段です。公共事業で来て、それに慣れてしまった。ぶら下がるのに慣れてしまった。自らというものがなく、生産して採った後は全てお任せ。採るだけ、出荷するだけ。

ところが世の中が変わった。自ら、ここでよりよいものを作り育てて、ここで加工して、ここで直接打って出なくてはいけない。他の業界は全てそうになっています。ところが北海道の一次産業はそうっていない。何故かということ、今日は言いません。

自らよりよいものを作り育て、加工して直接売るということは、どういうことかということ。今はネットの時代ですから、そうになっています。

だとすると、採るだけ、出荷するだけから意識を変えないといけない。そうすると今までの個々の意識を変えてもらわないといけない。そういう努力を生産者にやれというのは無理なんです。

ですからそういう事も話題として提案していただきながら、調査をしていただいて、議論したらどうかと。

話は戻りますが、一番人口が多かった時代から各々の町、市を振り返っていただいて、どういうことで栄枯盛衰があったのか。それをよく分析すると自分の町の人口が見えてくる。消滅なんて絶対ありません。

ところが今のまま、人口減少と働き手がないから何かしろと言っても無理な話です。ですから、今のことを分析していただく、その一つで私はいろんなものが見えてくると思っていますので、そうすると共通した課題もどうあるべきかという対応策が出てくるのではないかと考えています。

いろんな事に関連しますが、是非、一番人口が多かった時代から今日までの各の町の分析をしていただいて、その上で釧路管内がどうあるべきかということになっていくと、意義のある釧路の活性化に繋がると考えておりますので、できれば御検討いただきたいと思っております。

○釧路公立大学 中村地域経済研究センター長

中村です。今資料を見させていただき、皆さんのお話伺い、だいたい皆さんの話と同じだと思うのですが、いくつかお話させていただければと思います。

地域を支える産業の担い手と今後の地域づくりというところで、環境変化の話と今後の課題というところで施策検討のアイデアというところで、方向性としてはこういう形の整理でいいと思いますが、特に担い手のところなんですけれども、今もお話があったように

労働者不足が人口減少と違うという話いただいていますけれども、人手不足の対応というところで今、人手不足の話でいうと移住定住と後は広報活動をしますという話になっているけれども、広報・移住で人口を増やすのもあるのかもしれないけれども、人手不足にどう対応するのかというのを具体的な施策として書き込んだ方がいいのではないかと。ここは議論があるかと思いますが、3つほど私の切り口をお話させていただければと思います。

1つは主要産業の担い手の確保というところで、今まで各首長さん、農業の後継者不足とかですね、それぞれ対応されて適切なインセンティブをつくってですね、成功させたり頑張っておられるところなんですけど、ここで釧路地域ということであれば主要産業の担い手をどうするのか、担い手のターゲティングと具体的な担い手が来てビジネスするインセンティブづくりというところを、もう少し地域全体として考えたらどうなのかというところなんです。個別の自治体では頑張っているんですけど、国全体の食料自給率を支えてですね、釧路の地域産業がなくなると日本の食料に本当に問題があるということだとすると、国策としてインセンティブというところで、インフラもそうですが移住のところですね、具体的には主力産業でどういう業種で何人ぐらいでしかもどんな業種が必要なのかというのは、たぶん個別では企業さんがお分かりかと思うのですが、ある程度整理をした形で、地域全体として移住を広報だけではなくて、具体的なインセンティブを付けて、しかもそれが国全体を支えるのだから国のお金も当然とってくるような形でこの制度をサポートするような話が必要なのではないかと思いました。ターゲティングで必要な人材を得るという話は、先ほどの皆さんの話もありましたが、最近では北見市さんがバス運転手不足で協力隊の制度を使って導入するような形もあるので、そういうターゲティング・インセンティブですね、これが必要なのではないかというのが1つ目。

あと2つ目は、担い手のところで特にエッセンシャルワーカーの話です。エッセンシャルワーカーは医療とか公共交通とか生活インフラ、物流で地域を維持するのに不可欠なところなんですけれども、当然人手不足で厳しい状況になっていると。先ほど北見市さんのバスの話もしましたが、それに加えてですね、特に私がお話したいのが、地域の生活環境を支えるための医療の担い手の話です。医療の担い手の話も全体的にされているんですけど、科ごとの医師の不足、特に札幌から日帰りできないこの地域は非常に問題になっていて、私の場合はいつも学生を相手にしているので、心療内科ですね、みなさんの時代、我々の時代と若い人は違って、ストレス社会で心療内科に通うのが当たり前。東京だと普通に思春期クリニックというのがあって、小学校から普通に通ってますから、そういうレベルなんですけど、釧路の場合は精神科も少ないし、特に思春期、学生が使える心療内科はいないので、事実上、帯広とか札幌に子ども達に行ってもらわなければならない状態になっています。

そうすると、若い人を移住、定住させるために、若い人のインフラの基本として心療内科というのは、特に大学とか学校の間からしたら不可欠なんです。みんな帯広と札幌に行かせてしまっているのです。

なので心療内科とか、そういうエッセンシャルワーカーを具体的に連れてくるようなサポート、インセンティブ。あともう一つ言うと少子化と言いながらも産婦人科が減っていて、釧路では出産できるけど他の地域だと第一子は地元では産めなくて、第二子以降でな

いと産めないと事実上なっていると思いますが、少子化に対応しましょうと言って、子どもが産めないという、逆に嫌がらせに近い状況なので、その辺も含めてエッセンシャルワーカー、特に医療のところは生活環境、若い人を誘致するという点でも不可欠ではないかというのが二つ目です。

三つ目は、地域を支える担い手対策というところで、外国人労働力についてきちっと書かれていないのが私は非常に気になっていて、日本も今まで技能実習生という形でごまかしながらやっていましたが、今回、技能実習生の制度もようやく変わって、外国人を労働力として受け入れる方向にシフトしています。

日本全体の中でも特に地方こそ、労働力不足が深刻になっているので、ここを担い手のところで外国人労働力というのをきちんと位置づける必要があるのではないかとということです。

そこで特に、外国人労働者を位置づけた場合、先程の主要産業の話と同じで、具体的にどういう人材を、どういう職種を、何人くらいという形で、具体的なターゲットイングと、あと技能実習生が新制度になると、地方から東京など稼げるところに行ってしまう、定着しなくなるだろうというのが皆さん非常に懸念されていますが、残っていただくようなインセンティブ、定着してもらうようなビジョンが必要ではないでしょうか。

特に技能実習生のところはきちんと皆さん議論されていないですが、日本人より安いから雇っているのではなくて、日本人を雇おうとしても誰もいないので、技能実習生を、賃金だけではなく訓練等も含めれば日本人より最終的な募集コストがずっと高いお金を払って連れてきているということで、コストもかかっています。日本人よりコストもかかっているのに地域から出てしまう、ということにならないよう、ちゃんと残ってもらうような仕組み、民間だけではなかなか難しいと思うので、地域全体で、特に日本は労働力不足ですが、労働力不足が一番最初に出てくる地方で、外国人労働者の受入の方向性、ターゲットイングをきちんと示す必要があると思いました。ちょっと抽象的な話で申し訳ありませんでしたが、以上です。

○一般社団法人摩周湖観光協会 渡辺会長

摩周湖観光協会の渡辺です。いつもお世話になっております。観光に関して、コロナウイルスが5類に移行され期待感が増していたところでしたが、円安や物価高により家庭での節約ムードが高まっている状況下であることや、コロナ禍での宿泊補助により安い宿泊代に慣れてしまったためか、日本人観光客の動きがゴールデンウィーク以降、非常に鈍い動きとなっています。ほかには、旅行会社の団体旅行に関する販売力の低下、バス運賃の値上げ、ホテルの人材不足などでホテルの部屋が空けられないことなど様々な要因が考えられます。

日本各地ではオーバーツーリズムが新たな問題となっておりますが、道東ではそこまでの状況には至っておりません。やはり、道東らしい観光を築き、少ない観光客でも高収益を実現できる取組が重要であると考えております。アドベンチャートラベルなどにより高付加価値な文化体験を提供することや、ラグジュアリー層観光客を取り込むための情報を発信し、DX化を図っていく必要があります。また、世界に通用する釧路湿原の大自然、そ

してこの地域がつくりあげた産業や歴史、文化、食の魅力を思う存分アピールして興味を持ってもらう取組が大切であると考えています。

やはり、観光による感動をきっかけに移住してもらった方々が地域の担い手として活躍する可能性が高いと思います。今後釧路の課題として、チャーター便の誘致、豪華客船の誘致、宿泊税の検討や利用法、日本人とインバウンド客との二重価格の設定など、これからの課題もありますので、今後とも皆様の御指導をよろしくお願いいたします。以上です。

○北洋銀行 牧田釧路中央支店長

北洋銀行の牧田でございます。皆様にはいつもお世話になっております。ありがとうございます。私の方からは、事務局の方から御説明のありました各プロジェクトについては、当行と関連がある事項の取り組み状況について何点かお話ししたいと思います。

まずはSDGsについて、当行は北海道様とSDGs連携協定を結ばせていただき、道内の各企業様のSDGsの推進や普及に取り組んでいるところでございます。以前は各企業がSDGsを宣言するサポートをしていましたが、現在はさらに踏み込んで、各企業様が設定したSDGsの目標を達成するための計画策定や進捗状況の観測を伴走してサポートしていく取組を行っております。

SDGsコンサルタントの中で、各企業様が目標として設定されている事項については環境に関することが多いのですが、最近は職員の方々の定着率上昇あるいは職場環境の向上を掲げることが多いです。皆様のお話を聞くと、人材不足が共通の認識であると感じますが、各企業様においても新規職員採用に相当苦慮されており、さらにせっかく入っていただいた職員の方々の定着率低下に対しても課題を感じておられます。各企業様の人事担当の方からは、1、2年で辞めてしまう方や、下手すると数か月で辞めてしまう方など、非常に困ったお話を聞かされることが多いです。そんな中、当行のコンサルティングにおいて職場環境をどのようにするか打ち合わせをさせていただいているのですが、女性職員の活躍を促進していこうと目標を設定される企業様が増えています。手前で恐縮ですが、今月プレスリリースをさせていただいたとおり、当行では北海道内で初となる女性活躍推進法に基づく「プラチナえるぼし認定」を取得しました。当行独自の女性活躍の取り組みを各企業様に伝えていきたいと考えております。

次にゼロカーボンについて、当行でも2050年のカーボンニュートラル実現に向けて独自の取り組みをしまして、こちら先月7月9日にプレスリリースをしたとおり、北海道ガス様の御協力のもと、道内のデータセンター2箇所に対し、道内初の「Jクレジットを活用したカーボンニュートラル天然ガス」の導入を決定いたしました。それ以外にもカーボンフリーの電力、省エネ設備の更新、社用車をハイブリット車や電気自動車に変えていく取組、店舗に発電機を設置する取組など、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて当行独自で取り組んでおります。ちなみに管内におきましては、先月厚岸町様、標茶町様とJクレジットの推進および林業DXに向けた連携に関する協定を結ばせていただきました。どうもありがとうございました。当行では釧路地域に限らず、全道においてもカーボンニュートラル実現に向けた取り組みをしたいと考えておりますので、今日お集まりの皆様におかれましては、御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に事業承継について、人口問題など様々な事項と関連することですが、釧路市内でも事業継承が進んでいない企業様が多くございます。身内に後継者がいらっしゃらない、職員の中で後継者がなかなか見当たらない、などの課題を抱えている企業様が多いです。事業承継は大きく分けて、親族内承継、社内承継、M&Aの3通りございます。当行も様々な御相談を承っておりますが、事業規模によって担当の税理士先生におさまる部分があったり、企業規模によっては当行のような外部コンサルを入れなければならない決まりがあったりと、様々なことが必要となり、それなりに費用負担もかさんでしまいます。当行で道内の自治体様に提言させていただき、事業承継に関する補助金の助成を採択していただいている自治体様も増えてきております。また個別に皆様にお話しさせていただきたいと思っておりますが、事業承継を後押しするような制度設計について、これからいろいろ御提案させていただきたいと考えておりますので、是非御検討いただきたいと思いますと思っております。以上です。

○浜中町農業協同組合 高岡組合長（書面での意見提出）

1. 釧路地域づくり連携会議及び釧路・根室地域づくり連携会議・合同会議設置規約の改正
＜異議なし＞
2. 連携地域政策展開方針の進捗状況及び次期「釧路・根室連携地域政策展開方針」振興局案等
＜異議なし＞
3. 「地域づくり推進ビジョン」のフォローアップ及び次期「地域づくり推進ビジョン」
＜異議なし＞
4. 意見交換（地域を支える産業の担い手対策と今後の地域づくりについて）

関係人口を増やしてその中で移住・定住につながっていけばよいと思うし、関係人口や観光客を増やすにしてもその市町村の条件も違うので市町村の得意なやり方を考えて取り組むべきだと考えます。

担い手の確保に関しては、地域おこし協力隊をフル活用して市町村においてやりたいことの核になる人間の確保をして地域の人たちを巻き込んでいくようなやり方はすでにやっていると思いますが、そこをもっと充実させていくことが重要なことだと考えています。

また、小学校・中学校からの教育も大切だと考えています。農業だと食育とか農学だとかがありますが、漁業や林業や港なども含めて学校で授業の一環として取り入れてもらい小さいころから釧路地方を知ってもらうことは大切なことであり、地域の産業や特徴を理解してもらうことで、地元で親しみを持ち地元で帰ってきたいと思う気持ちを育てることにつながらないでしょうか。

特に釧路港は釧路市だけでなく釧路・根室・オホーツク地方の産業のかなめとなり、道路網も整備していかなければなりません。そのためには、市町村・振興局を超えて考えていかなければなりません。

○釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラム 宮田座長（書面での意見提出）

前回の会議に参加できず、大変申し訳ありませんでした。

いつも感じますが、釧路根室地域の中の経済指標と、それぞれの市町村の取り組み状況などの報告で時間いっぱいになるのですが、今後は、北海道全体が日本国内において、たとえば、食料自給率の観点からいうと国の自給率37%くらいを他の先進国並みの70%にしてゆくためにも、北海道全体としてこうしてゆく、という数値目標や取り組みビジョンを掲げて、それに向けて釧路根室地域では農林水産関連では〇〇%上昇に貢献するために、こうしよう、というような全体目標を持てるような設定も必要ではないかと思えます。

食関連のみならず、観光、産業育成、DX、GX、スタートアップの育成や既存企業のチャレンジを促進する北海道、そして釧路根室のノルマではなくて、努力してゆく目標と、われわれ住民の付加価値創造や地域の利便性、安全性向上を作る自らの努力目標などを合わせてゆくような取り組みにしていきたいと思えます。

これまでのせっかくの大切な議論をベースに、さらに一步先の共通の目標を掲げられるとよろしいかと思えます。

1. 釧路地域づくり連携会議及び釧路・根室地域づくり連携会議・合同会議設置規約の改正 ＜異議なし＞

今回の規約の改正に関しては、特にありませんが、上述の通り、今後北海道全体の総合計画を踏まえ、この釧路根室地域が北海道において、どのようなポジションを担うのかを、エリア内の経済指標の動向だけではなく、一人当たり GDP 的な付加価値創造で実態を把握し、その現実から目指すべき姿を切磋琢磨してゆくことも必要だと思えます。

ふるさと納税だけではなく、まちづくりで優れた目標を掲げている弟子屈や白糠、厚岸というマチもありますので、釧路管内はそれに学びながら、みんなで成長してゆくことが望ましいですね。

2. 連携地域政策展開方針の進捗状況及び次期「釧路・根室連携地域政策展開方針」振興局案等 ＜異議なし＞

北海道 Society 5.0 や GX における取り組みが道央圏に集中していることを踏まえて、釧路根室地域（十勝、オホーツクも含めて）全体の北海道の右側地域の拠点をしっかり一意図的に整備する方向感を示すことが必要だと思えます。

何でも釧路ということではないのですが、今のままだと末端地域である釧路根室では DX、GX など踏まえた新産業の誘致が難しいので、集中的にモデル地域を作らないと重点戦略は地域では小さな事例紹介になってしまう気がします。

たとえば、酪農クラウドから酪農情報データセンターや国際的な酪農技術の研究や人材育成の拠点を中標津、標茶に作るとか、漁業でも同様な取り組みを北海道が主導してゆくような、国の行政機関の地方移管なども含め、北海道の右側地域だけでも、それぞれの思惑を超えて、新しいフレームを作っていくことも必要だと感じています。

3. 「地域づくり推進ビジョン」のフォローアップ及び次期「地域づくり推進ビジョン」 ＜異議なし＞

そうした中で、ポテンシャルだらけの釧路根室地域においては、基本方針1にあるような各分野ごとの掘り下げをさらに徹底して、国や道の予算だけでなく、強力なクラウドファンディング（ふるさと納税での成果をみれば明らか）や、地域の企業の投資も呼び込んで新しいプロジェクトに挑戦してゆくフレームづくり（企業投資による減税や償却の優遇など）をもっと北海道として、かつての道州制ブームではないけれど、地方行政の取組ももっと新しいものにしてゆく知恵も必要なのではと思います。

4. 意見交換（地域を支える産業の担い手対策と今後の地域づくりについて）

人口減少や入込客の減少はすぐに打つ手がありませんが、人口が減っても一人あたりの付加価値創造を大きくしてゆけば、いいことなのであまり気にしていません。ただ、次第に現在の仕事の人手不足が深刻になってきているのは事実です。

そこで、この釧路根室地域だけではないですが、地域の素晴らしさをもっと SNS など戦略的に発信し、地域の住環境や家賃、あるいは土地家屋を持った場合の優遇策や低金利、そして就業の場の紹介などで、モデルプランをもっと体系的に紹介する地域サイトを作るべきだと思います。

就業も現在の建設土木、農業、酪農から観光、商業、あるいは IT やマーケティングに至るまで、釧路根室、十勝、オホーツクも含めて今一度整備をする必要があります。もっと戦略的な U ターン、I ターンの優遇策を北海道、各自治体を連携してキャンペーンする機会が来ています。

涼しくて、自然の中で子どもたちを育て、そしてネットワークによって教育や文化にもリーチでき、病診連携も整っている地域の姿を整備して、行くことによって、次第に人が集まってくると思います。

そのためには、1、釧路駅前の周辺開発で、交通体系（バス、JR、レンタカー、一般車など）の融合した拠点に、地域行政（振興局関係の施設の統合）や地域医療の中心としての総合医療機関の駅隣接化（あるいはメディカルセンター化）や、文化施設などの集約化を図り、エリアの住民サービスの拠点をしっかり作ることです。

その拠点に、地域の大学である釧路公立大学、釧路高等工業専門学校、北海道教育大学釧路分校の3、4年生などの上級学年のサテライトを集合させ、特に英語を中心として語学力の向上など、地域のこれからの観光や商業、酪農、水産などの分野での国際化に対応してゆく人材の育成も意図的に行わなくてはならないと思います。

2、なんでも釧路と思われるかもしれませんが、港、空港、高速道路のある釧路市につながる、国道44号線のみならず、3桁国道、道道の整備高速化（3車線で追い越し車線の整備など）、そしてオホーツクからの道路の高速化（3車線で追い越し車線の整備、峠の道路の整備、あるいはトンネル検討など）、本別のインターの釧路サイドへの双方向化など、物流インフラのある釧路と高速道路、空港、港を効果的に稼働させるインフラの再構築は不可欠の問題です。

3、北海道東トレイル（HET）の連携は世界でも有数のトレイルフィールドになると思います。ここに山奥でも使える衛星通信や日本アルプスなどでも使われている LPWA などの通信技術を率先して導入して、利用客の安全確保をするべきだと思います。

4、観光客などの増加に対して、既存施設の老朽化や劣化がととても目立ちます。たとえ

ば、釧路湿原の展望駐車場からは何も見えないくらい雑木が増えて、歩道も雑草だらけという状況で、一度共通の予算をとって、観光シーニックバイウェイのポイント点検をする必要もありますね。

5、前述の通り、日本国内の食料自給率の上昇ポイントに貢献できるのはもはや北海道、それも道東が大きな役割を果たすときです。その拠点として、ロボット化の進んだ酪農とミルク、食肉の付加価値化や研究所の誘致、いろいろな種類の植物工場の建設と栽培技術の向上や、農業のみならず、陸上養殖や海面養殖での研究や挑戦、などの総合的な調査研究、人材育成、DX化した新しい生産方法や省力化のモデル地域と拠点を釧路根室に作るべきです。

6、酪農、植物工場、養殖などを含めた水産の供給を受けて、食品加工の高度化やマーケティングを創造的に行う食産業拠点を釧路市内に作り、地域連携を図ることも必要。

7、森林資源も現状のままではなく、ヨーロッパ型の伐採から植林のオートメーション化をもう一度学び、これは北海道しか導入できないポイントなので、チャレンジを促す施策をつくるべき。

8、ノルウエーの水産養殖、オランダの植物工場の運営、デンマークの風力発電などの再生可能エネルギーへの取組など、同じ気候帯の先進国にもう一度謙虚に学び直しを北海道として行うときが来ているのでは。かつては日本が優れていたという過去の栄光を捨てて、もう一度世界をみるべきでは。

9、作られる食関連製品、工業製品が脱炭素のエネルギー供給のもとで製造されていなければ輸出できなくなる中では、北海道のエネルギー状況は後手後手です。道東の再生可能エネルギー取り組み予算を増額し、整える方向を民間のみならず、国、道の優遇施策などの支援も作成して、促進するべきでは。

10、北海道のDX、GXを進めるうえで、自然由来電力、水の他に、超高速のインターネット環境整備があります。現在、EUと日本の間の高速ネットワーク調査で、北極海、アメリカサイドからの高速ネットワークの海底ケーブルの敷設を昨年から調査されていますが、アリューシャン列島から東京までのケーブルを分岐して北海道へ繋ぐ計画があります。

これを苫小牧に接続ではなくて、釧路にあげてノードを作り、そこから今回リンクされる道東道（阿寒 IC～釧路西 IC）によって、高規格道をつかった光ファイバーを千歳、札幌方面へ接続したほうが、コストも安くできるだけでなく、道東（釧路、帯広）にノードを作ることで、一気に道東のネットワーク環境が改善されます。北海道として、ぜひ、道央圏に集中するだけでなく、こうしたポイントも推進してほしい。

勝手な意見を出しましたが、よろしくお願い致します。

○釧路総合振興局 木村局長

ありがとうございました。一巡御意見をいただいたところで、本来はこの後議論ということになっていますが、ちょうど予定の時間が迫っておりますので、いままでの各位のお話をお聞きしたなかで、これだけは一言いいたい、もしくは言い忘れたことがあるという

ことがございましたら御発言願います。よろしいでしょうか。

ただいま各委員の皆様方から人口減少、担い手不足といったテーマでいろいろとお話を伺ったところです。振興局としましては、外からの移住という手段もありますが、足下の産業を固めないとなかなか、出て行く人を止めておくことができないというのが一番の課題だというふうに感じているところで、我々として、地元の就職を促すための「じもと×しごと発見フェア」の開催や、情報誌の発行などを行っているところですが、今後ともそういったところを進めていきたいと思っておりますので是非、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それから新たな産業として見込まれている AT の関係につきましても今後更に力を入れていきたいと考えております。先ほど人口問題・担い手問題と同様、各市町村さんだけでやってはなかなか埒があかない部分もありますので、これからは地域連携というのが非常に大切になってくると思います。そのような意味もありまして、ますます我々振興局の役割というのが重要となってくるかと思っています。AT に関して言いますと、正式には決まっていますが、今年度中に新たに AT ガイドの育成やツアー造成といった商品開発を目標として、振興局として地域おこし協力隊員を募集することとなっていて、全道で試験的にやってみようという中で釧路がそのモデルとして選ばれ、そういった取組もやっておりますので、今後地域一体となってそういった新しい産業の創出、地元の人口流出防止といったところに力を入れてやっていきたいと思っておりますので、今後とも御協力のほどよろしくお願いいたします。

それからさきほど棚野町長から御指摘のありました、人口減少と人手不足は別問題であるという、これは中村先生からもお話をいただきましたけれども、まさにそのとおりだと感じています。御提案のありました、最盛期の頃の分析というものもやってみようかなと思っていますので、御協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして意見交換を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。それでは、進行を司会へお返しします。

○釧路総合振興局 土岐副局長

それでは、「4 その他」に移ります。事務局含め、何か説明事項等ございますでしょうか。特にないようですので次に進みます。

それでは、最後になりますが釧路開発建設部の坂部長から、会議のまとめを兼ねて、閉会の挨拶をお願いします。

○釧路開発建設部 坂部長

本日は長時間にわたりありがとうございました。また、7月18日、23日には首長の皆様におかれましては、札幌、東京と暑い中、期成会の要望活動をしていただき、ありがとうございました。

今日いただいた御意見で、日本の食を支えているのはこの地域であり、そのために道路などが必要だということを改めて感じさせていただきました。

特にお話があった中で、一つはアウトドアです。釧路川の活用など御要望いただい

るところですが、それに加えてロングトレイルの話もありました。長く歩くためには、どこかに脱出する手段も必要ですので、そのネットワークとして国道の整備であったり、お話のあった鉄道の整備、そういうものがないと安心して歩けませんし、カヌーで下ることも難しいといった御指摘をいただいたのかなと思っております。

国道脇の風景として太陽光パネルの御意見もございました。改めて我々の視点になかった部分もあったと思いますので、これから釧路湿原、高規格道路のネットワークができる観光客が来る、そういったところの連携を、もっとより具体的に考えていかないといけないと考えたところです。

また、棚野町長よりものすごく大きな宿題をいただきまして、タイムスリップする、本当に難しい宿題だと感じたところです。まず昭和30年代、一番最盛期だった時の分析、そこをして、石炭、山があった時代に、こういう作業の仕方だったからこれだけの人が必要だと。けど今は、これだけの技術があり、タイムスリップしたらどれだけの人が必要なのか、ということかと思えます。

その分析をまずしっかりとやらないといけないので、僕よりも後ろの人たちが緊張したと思うのですが。

○白糠町 棚野町長

いや、難しくありませんよ。首長の皆さんが役場に帰ってそういう風に言ってもらえれば良いですから。

○釧路開発建設部 坂部長

まずはスタートとなる昭和30年代のところをやってから、と思いますので、御協力をいただきたいと思っています。

総括いたしますと、お忙しい中、このようにお集まりいただきまして、色々な中で我々分析を進めたところでございますが、まだまだ足りないところもございます。

様々な場面で御意見をいただきながら、ビジョンを作成していきたいと思っておりますので、引き続き、御協力の程、よろしく願いいたします。

簡単ではございますが、私としてのまとめの挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○釧路総合振興局 土岐副局長

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして「令和6年度釧路地域づくり連携会議」を終了いたします。本日はお忙しいところ、長時間にわたり、誠にありがとうございました。

(以上)